


歴史まちづくり活動 概要シート

情報提供内容	<input type="checkbox"/> 活動グループ紹介(組織紹介) <input checked="" type="checkbox"/> 活動紹介(具体的な活動事例紹介)		
カテゴリー (複数チェック可)	<input checked="" type="checkbox"/> 建物単体	<input type="checkbox"/> 地域・まちなみ	
	<input checked="" type="checkbox"/> 調査・研究	<input checked="" type="checkbox"/> 保存・利活用	<input type="checkbox"/> 活動・イベント <input type="checkbox"/> 災害復旧 <input type="checkbox"/> その他
キーワード	#近代(戦後) #ドコモモ選定建築 #ヘリテージマネージャー #塩害コンクリート建築		
ブロック名	建築士会名	支部(地域会)名	
九州沖縄	沖縄県建築士会		
グループ概要			
活動団体名	歴史まちづくり部会	連絡先住所	〒901-2101 浦添市西原 1-4-26
代表者名	向井純子	TEL	098-879-7727
シート作成者	根路銘安史・向井純子	E-mail	junpee0212@yahoo.co.jp
活動開始年	2020年11月	URL	http://shikai.or.jp/
備考	協力:今帰仁村教育委員会、東京理科大今本啓一研究室、(株)ポゾリスソリューションズ		
活動名称	今帰仁村中央公民館を保全する		
<p>●活動の目的</p> <p>1975年竣工の今帰仁村中央公民館は、象設計集団+アトリエ・モビルによる批判的地域主義に基づく活動萌芽期の重要な作品とされており、2015年度にドコモモジャパンに選定された。1960~70年代沖縄のコンクリート建築の多くは、除塩していない海砂を使用している。今帰仁村中央公民館も例外でなく、屋根スラブを中心に鉄筋の爆裂とそれによるコンクリートの剥落があちこちに観察され、一部の部屋は使用が禁止されている。建て替えを望む声が高まる前に、最小限のコストで劣化を止めて補修する必要がある。さらに、公民館の西側部分を占める村教育委員会が新庁舎へ移転することが決まっており、移転後の魅力的な活用方法を提案していくことで、地域住民に愛着を持っていただくことを目標としている。</p> <p>●これまでの活動</p> <p>2020年12月~ 東京理科大今本研と協働し、劣化原因及び劣化防止策を検討。脱塩のようなコストをかけず、鉄筋への水分浸潤の阻止に徹する方針を決定。村教委の協力を得て、屋根スラブとその上に塗られたモルタル層との間の滞水解消のため、浮いたモルタルを撤去した後、表面含侵剤を塗布する計画。</p> <p>2021年7月 ヘリテージマネージャーを中心に、鉄筋コンクリートの劣化と補修に関する勉強会を開催。翌日は村教委およびヘリマネ有志で屋根スラブ上のモルタルを撤去した。コロナ蔓延のため住民の参加は見送った。撤去後、ハイグロクロンの埋込みと、電気抵抗測定器及び乾式コアによる含水率を計測。</p> <p>2021年7月~ 屋根スラブコンクリート中の含水率分布及び温湿度の測定を定期的を実施。</p> <p>2022年4月 ヘリテージマネージャーにより屋根スラブ面の高圧洗浄とシラン系含侵剤の塗布。</p>			
			
<p>●今後の活動予定</p> <p>コンクリートの観測と調査を継続し、その成果を沖縄の他の塩害コンクリート建築にも応用していく計画である。また、村教委・地域住民と協働して当該建築の魅力的な活用方法について検討していく。</p>			
地域貢献度	★★★★★	活動を通じた課題や展望	
建築士会関係度	★★★★★		